

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 10 月 3 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271401822		
法人名	社会福祉法人 楽々会		
事業所名	グループホーム 楽苑		
所在地	〒859-1402 長崎県島原市有明町湯江乙 1138		
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 1 日	評価結果市町受理日	平成 26 年 10 月 21 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
--------------	---

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町 3118-1
訪問調査日	平成 26 年 9 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

全員が女性スタッフで、きめ細やかなサービスを提供しており、開設当初から職員の退職者もなくチームワークも良く取れています。

立地的に自然に囲まれた環境の中、苑内にて犬や山羊を飼い、利用者の方との触れ合いにも役立っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

今年開設 10 年を迎えた当該事業所は、「楽苑は楽しいところ」の理念が介護現場で遺憾なく発揮され、入居者が安心して過ごせるよう笑顔あふれる空間づくりに取り組んでいる。職員一人ひとりの経験や持ち味が業務の中で生かされ、職員がお互いに支え合いながら入居者に対し真剣に向き合う姿が、介護における安定感や苑全体にぬくもりを与えている。地域に対しても「常に入口を広くありたい」と顔なじみの関係を大事にしたい考えがあり地域の敬老会、文化祭、保育園の運動会に招待され、また婦人会等の慰問を通して、地域の一員としての交流が行なわれている。入居者にとっても住み慣れた地域との接点を持つことができる事は生活の中で大きな喜びにもつながっており、職員は入居者や家族の人生に関与している意識を常に持つなど、居心地のいい生活を支援することに全力で向き合う管理者や職員の姿から、今後ますます期待の持てる事業所である。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽苑は楽しい苑 楽しくなければ楽苑じゃない」という理念の下、その理念を常に心掛けて取り組んでいる。	毎朝申し送りの際に「今日も楽しくしていきましょう」と理念の意識付けを行い、「視線を合わせて会話をする」など毎月具体的な目標を掲げることで理念が確実に実践できるよう職員全体で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園からの慰問、中学生の福祉体験、婦人会との交流、地元消防団との消防訓練の実施等、日常的に交流している。	地域に対して入口を広くしたいとの思いから地元行事や保育園訪問を通して地域との接点を持ち地域理解や、顔なじみの関係作り、また心の交流を働きかけることが利用者や地域の安心、喜びにつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老の日や町の文化祭等で各地域へ慰問を行い、そういう場を大切に、理解や支援方法につなげている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、地域包括支援センターの職員、利用者家族、自治会の方を交えて、サービス内容・現状報告等の意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	推進会議では入居者の状況報告を通して事業所としての方針や苦慮している部分を報告し問題や課題に真摯に取り組まれている。状態報告を通し委員からの助言のもと権利擁護制度の活用に至るなど、関係者からの実直な意見や助言を聞く機会として活用されている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の文化祭では、公共施設を活用させて頂き、そういった場でサービス内容をお伝えしたり、相談事で市の窓口に向いたり協力関係を築くよう取り組んでいる。	推進会議において事業所の離設事故を報告し、認知症徘徊事故における緊急時の対応など行政からの助言をもとにマニュアルの整備に取り組んでいる。今回の離設事故を通し関係機関との連携を強化したいと問題に真摯に向き合う姿勢を持っている。	離設事故に対する事業所独自のマニュアルの整備を早急に行うことや、今回の事故を通して関係機関への協力調整に積極的に取り組む必要性が感じられる。利用者、家族が安心して過ごせる体制作りとして行政に積極的に問題提議するなど、地域とのネットワーク作りの強化や取組みが期待される。

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。しかし、どうしてもやむおえない場合は、家族と相談のうえ、書面でのサインを頂き了承を得ている。日中は玄関の施錠も行っておらず、センサー対応にて行っている。	事業所は入居者の尊厳を守るために身体拘束は行わない方針であり、職員による見守りの充実やコミュニケーションの工夫によって入居者の行動や心理症状に注意を払い、行動の把握を行うことで身体拘束廃止に向け職員全体で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待があってはならないことを理解し、行っていない。研修会も行っている。言葉や態度ひとつにしても注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターの元、権利擁護等について学ぶ機会があり、必要性がある方には話し合い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には事前に施設見学をして頂いたり、利用者やご家族の要望等を十分に伺い、説明をし、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や運営推進会議等で意見や要望を伺ったり、玄関近くにアンケート、意見箱の設置をし、外部へ表せる機会を設け運営に反映させている。	入居者本人、家族に対し喜びを感じてもらえる生活を支援したいと、日ごろから家族との関係性や意思疎通を大切にしている。しかし、内面的な満足度が見えにくいため今回目標達成計画を掲げアンケートを作成し取り組んでいる。明確な満足度の可視化は難しかったが、今後も手法を工夫し取り組みたいとしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや職員会議、事業所会議等で意見交換を行い、日常的にも職員間で話し合い、意見の反映につなげている。	管理者は職員に対して入居者の状態変化や、業務の中で生じた気づきなど、朝礼やミーティング以外にも職員の言葉に耳を傾け、問題点や現状を把握しながら必要な環境を調整し入居者や職員の安心感につながるよう取り組まれている。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の能力や実績などを把握し、職員が向上心を持って働けるよう、環境、条件の整理に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力、力量を把握し、外部研修の参加を促すことにより、各自の意識向上につなげ、やりがいを持って働いていけるよう努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>講習会や勉強会、研修会を通じ、互いの意見交換を行い、サービスの質の向上に役立てるよう取り組んでいる。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者の不安や要望等について話を伺い、本人が安心して生活できるように、関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の不安や要望等について相談し、本人・家族とも安心して生活できるように関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族が今、必要としている支援を見極め、一番良いサービスができるよう対応に努めている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力を見出し、役割を担ってもらうことで、介護されるだけではなく、一緒に生活を共にする関係を築いている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、その時間を大切にし、一緒に外出をしたり共に過ごしたりと家族の絆を大切にしながら本人を支えていく関係を築いている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が気軽に遊びに来られたり、行きつけだった店へ買い物に出掛けるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	受診での外出の機会を利用し、行きつけの商店や美容室、自宅周辺へのドライブに出かけているほか、家族の協力も得ながら法事や墓参り等、これまで培ってきた入居者の思いにより添い、穏やかで安心した生活を送れるよう支援されている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、共に支えあって生活できるような支援に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くに入院された方にはお見舞いに伺ったり、施設外で家族の方と会ったりした時は、経過を伺ったりと、相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との会話の中で本人の思いや希望、意向の把握に努め、困難な場合は、態度や言葉の流れの中で把握するよう努めている。	職員は入居者の表情や仕草の観察を行い、常に意向や思いを問いかけている。重度の認知症や失語症など、意思疎通が困難な入居者に対しても状態に応じた声かけを工夫しながら、周囲からの情報や働きかけを通し利用者の暮らしがより充実したものとなるよう実直に取り組まれている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人の生活歴や生活環境など、本人、家族から伺い、これからのサービス支援に役立てよう努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の状態・過ごし方等個々人のカルテに記録し、全職員が現状の把握に努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや願いなど生活していく中で見出し、本人、家族と意見交換を行い、より良く暮らしていけるような課題をたて、介護計画を作成している。	日々の生活記録には毎日の表情変化や言動が記録され、また計画立案の際には毎回職員全体で課題分析や情報交換を行いながら、本人や家族の思いを実現するための目標を掲げられている。より把握しやすい記録になるよう記録方式に関して今後も検討していく意識があらわれる。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテに日常の様子や気づき、ケアの実践、結果を記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況などを把握し、その時々に応じて、色々なサービス支援に取り組んでいる。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治体や消防団との連携も取れており、本人が安全に暮らしていけるよう支援している。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を大切にし、希望があれば相談の上、適切な医療が受けられるよう病院受診を行っている。	入所以前のかかりつけを継続受診し、希望に沿って専門医の受診も可能である。受診後には毎回家族への連絡や、職員連絡帳に状況報告を行うことで、全職員が医師からの留意点や注意事項に対して全職員が統一して適切に対応できるよう支援されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師連絡ノートを作成し日常の情報、気づき等を報告し、相談している。又、利用者が適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療でき、早期退院ができるよう病院関係者との情報交換、相談に努め、本人のお見舞いに何うなど、関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方について、日頃から職員間、家族等で話し合いや説明をしながら共に支援に取り組んでいる。	終末期に真摯に向き合い、医師や家族の協力のもと本人や家族の希望により添い対応している。今回家族と共に看取った事例では、利用者や家族の意向に添えたことで満足した看取りにつながり、今後も医療や倫理観の知識を増やし更なる充実を図りたいと課題意識を持って取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より定期的に救急指導を行っている。又、急変時も病院連絡や応急処置ができるよう日頃から心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防署立会いの下、避難・消火訓練を実施。日常的にも訓練を行い全職員が対応できるよう身につけている。地元消防団とも連携体制を築いている。火災などを未然に防ぐため、防災カーテシ防災絨毯の使用をしている。	毎年消防学校での消防訓練を通して有事の際への対応に備えているほか、事業所での年2回の避難訓練の実施を通して消防署からの助言をもとに、振り返りや気づきを話し合い、実効性の高い取り組みへと問題意識を持ちながら職員全体で取り組んでいる。	月1回の自主点検を行い、日頃から風水害に対する話し合いの場もたれている。しかし、話し合いの実績や検討結果の記録が不足し、職員への伝達や周知状況が分かりづらい状況が見受けられる。災害の影響を把握しさらに実効性の高い訓練となるよう今後の取り組みに期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の思いを否定せず、プライバシーを損ねない言葉掛けや対応に努めている。 入居者居室入口には全室レースのカーテンが設えられ、室内が見えないようプライバシーへの配慮がなされている。言葉のかけ方や姿勢、接遇マナーを通してコミュニケーションスキルの向上を目指し、毎月目標を掲げながら入居者の尊厳を重視した対応に努められている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したりできるように対応や言葉掛けに努め、難聴の方には筆談やジェスチャーで自己決定できるように働きかけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にし、入浴日や食事時間等、どのように過ごしたいか希望に添って支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望で職員より髪のカットをしてもらったりと、その人らしい身だしなみの支援をしている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の見え目や盛り付け、器の工夫など考えながら提供している その人の力量に合わせ簡単な食器洗い、テーブル拭きなど手伝ってもらっている。 入居者のリクエストへの対応があるほか、ユニットごとに献立が作成され、彩のよい盛り付けにより食欲が湧く工夫や、安心して食事摂取できるよう落ち着いた雰囲気作りがなされている。法人内で食事内容に対する意見交換の機会も設けられており食事の満足度を上げる取り組みもなされている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事、水分量、減塩食等栄養バランスを考え、ミキサー食の方には、栄養ドリンクで栄養補給をもらうなどその人に応じた支援をしている。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや歯磨きは一人ひとりに合わせ、入れ歯の方には、ポリデントケアも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄ができるよう排泄パターンをつかみ、支援を行っている。	時間ごとのトイレ誘導を行い排泄の自立支援に向け職員間で声を掛け合いながら全体で取り組んでいる。適切な誘導を行うことで尿取りパッドの必要性がなくなり、発語や入居者の自信を取り戻すことができた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて排便の有無を確認し、その人に応じた食事の工夫や下剤の調整、腸の運動への働きかけに取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日の入浴が可能であり、入浴前に本人に伺ったりと希望に合わせて支援している。入ることができない場合は、足湯や清拭も行っている。	入居者の希望や生活リズムを尊重し、入浴時間帯や湯温の設定、脱衣室の室温設定など利用者本位の入浴方法となっている。適切な入浴方法の選択や入浴時には介護者の視線など、入居者の羞恥心にも配慮し安心して入浴できるものとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自室には、自分の使い慣れた備品を置いてもらい、以前の生活と変わらないようにしてもらったり、施設内にもソファや畳間にて休息したりと安心して生活できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はすべて施設での管理を行っており、お薬ファイルにて、用法・用量について理解しており、症状の変化を見逃さず、支援に努めている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で本人の力量を把握し、役割や楽しみごとで気分転換できるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設でも買い物や花見に出かける機会をつくり、家族が来られた時は、本人と一緒に外出や苑外の散歩など、家族と共に協力しながら支援している。	重度化が進み、以前のように事業所全体での外出は困難な状況になっているが、家族の協力も得ながら季節ごとの花見や自宅への帰省、また地域の港や、なじみの饅頭を買いに一緒に出かけるなど、できるだけ外気に触れることができるよう入居者の希望に添えるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族が行っているが、本人が買い物したい時は、小遣いをお渡しし、自分で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が使え、本人自らも携帯電話を持たれたり、いつでも電話ができ、手紙もすぐに出せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の天井自体も高くしてあり、光のバランスや照明にも気を遣い、刺激がないよう配慮している。 有線の設置もあり、落ち着いた曲などを流し、苑内に咲いている花々をリビングに飾ったり、としている。	職員による丁寧な手入れされた共用空間は採光や臭気に気遣いがあり、季節の花や利用者の作品が飾られるなど居心地の良い空間作りがなされている。余暇時間を、食堂で趣味の針仕事をしながら職員との会話を楽しむ入居者もおられるなど家庭らしい温かな雰囲気を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内の至る所にソファや椅子、テーブルの設置をしており、リビング内には畳間もあり、一人ひとりがリラックスできる場所を見つけ、自由な時間を過ごせるようにしている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用している家具備品類の持ち込みもあり、本人の使い慣れたものに囲まれ、居心地良く過ごせるようにしている。	自宅より使い慣れた寝具や鏡台、入居者の思いが詰まった仏壇、趣味の道具が持ち込まれ、家具やベッドの配置など居室それぞれが入居者の生活歴に応じ、柔軟な対応がなされ、入居者が安らかに心地よく生活できる様子が窺われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には、至る所に手すりを設置し、自力で歩行しやすいようにしている。居室のベッドにも起き上がりやすいよう手すりを設けたり、本人が自立して生活できるようにしている。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽苑は楽しいところ楽しくなければ楽苑じゃない」という理念を職員全員が常に心掛けて、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	婦人会や園児たちが慰問してくれたり演奏会も行っている 毎年文化祭にも参加し、利用者の皆さんに自分たちも地域の一員なんだと感じてもらえるよう心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年敬老の日に各自治会を訪問して、地域貢献に活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で、日々の業務報告をしたり、試食会、話し合いを行いサービス向上出来るよう努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や文化祭等を通して、市町と交流し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は行っておらず、どうしても時は、家族と相談の上、説明・同意書を得、行っている。</p> <p>日中、玄関は施錠しておらず、センサー音での対応に行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の勉強会も行い、虐待はあってはならないことを理解し、行っていない。態度、言葉遣いにも気を付けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する制度について学ぶ機会があり、利用者がいつでも活用できるよう支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には、施設内を見学してもらったり、利用者や家族に十分説明を行い、要望など伺い納得を図りながら行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時や運営推進会議等で意見を表せる場を設けている。</p> <p>玄関前にも意見箱やアンケートの設置も行い運営に反映させている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議や事業所会議、毎朝の申し送り等で意見や提案を聞く場を設けている</p> <p>日常的にも常に職員間での話し合いも行っている。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の努力や実績を把握し、やりがいや向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力・力量を把握し、外部研修を受ける機会を設け、参加を促している。研修を受けることで、本人のやりがいや意識向上につなげている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>勉強会、講習会を通じて互いの意見交換を行い、サービスの質の向上につなげていく取組を行っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の要望、不安なこと、困っていること等に耳を傾けながら、本人が安心して生活できるような関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時に家族等からの要望・不安なこと等、相談に応じ、本人・家族とも安心して生活できるような関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族が、今、必要としているサービスを見極め、それに応じたサービスができるよう努めている。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	衣食住を共に営む中で、共同作業から生まれる対話や知恵を伝授してもらっている。単なるリハビリの一環とせず、手伝ってもらって嬉しいと素直に喜んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を伝え、家族が見た本人の今と照らし合わせながら、互いに相談、又は、提案できる間柄を築けるよう心掛けている。玄関内に日常を撮った写真を置き、家族の方がいつでも手に取って見れるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、外泊、行きつけの店（理・美容院）への来店など、外部との関わりを打ち切らないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	車イスの方を押ししてもらったり、折り紙、塗り絵等個性を活かした環境を提供し、対話の場を増やしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先を見舞ったり、家族の方と逢えば近況を伺ったり、気軽に声を掛け合えるよう努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	精神面・健康面を考慮し日常の今必要な事、改善すべき点を見抜き、本人同意、主体の下対応している。		

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にこれまでの本人の生活歴、環境、習慣等、本人や家族を通じ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日の生活状態を個々のカルテに記録し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日常生活の中での思いや願いなどを見出し、本人・家族・職員間で相談しながら意見交換をし計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のカルテに日々の様子やケア内容を記録し、職員間で情報を共有しながら見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況をふまえ、その時に合ったサービス提供の支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団や自治会との連携も取れており、一緒に避難訓練を行うなどして、安全に暮らしていけるよう支援している。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を大切に、継続して受診できるようにしている。 必要に応じ、本人・家族の不安がないよう適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の変化、気づきを看護ノートに記入し、看護師が常に把握できるよう努めている。 体調に応じて病院受診し、Drの指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、家族と病院と情報交換を密にし、本人、家族が安心できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、病院と終末期について十分話し合い、体調を見極め、家族の要望に出来るだけ応じていくよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、AED、対処法等、救急隊の訓練を定期的に行い、職員も意識を高め、身に付けるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下避難訓練、消火訓練を実施。 地域の消防団とも連携を取りながら行っている。 日常的にも避難訓練を行っており、全職員が身に付けられるようにしている。 火災等、未然に防ぐため、防災カーテン、防災絨毯の使用をしている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人となり を大切にする為 に、本人の好みや 意識の持ち方、以 前の生活形式等よ く知るようにして いる。 それによって、そ の人その人の尊重 仕方に配慮し対応 をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を 表したり、自己決定できるように働き かけている	希望や意見を見 極める為に常に アクティブリス ニングに心掛 け、職員の側の 誘導がないよう に心がけている 。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切 にし、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	一日座って過 す方、本を見ら れる方、自室で 過ごされる方、 等々、無理強 いせず一日を 過ごして頂き 、レクリエー ションや催し ものがある場 合は、声掛け により参加し て頂く無理強 いせず、本人 を尊重する。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれ ができるように支援している	上下がバラバラ で全く合わない ということがな いように、本人 の好みもふま え、ただ着て いるということ のないように している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一 人ひとりの好みや力を活かしながら、 利用者と職員と一緒に準備や食事、片 付けをしている	野菜の皮むき、 インゲンのす じ取り等々、 下ごしらえの 手伝い、食後 の食器洗い等 共同作業を行 い、食の楽し さを知って頂 く。 季節ごとのフ ルーツの提供 。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量 が一日を通じて確保できるよう、一 人ひとりの状態や力、習慣に応じた 支援をしている	普通食、粗刻 み、超刻み、 ミキサー食、 汁物にはとろ みを入れる 等、一人ひと りに合った食 事の提供毎 日のカロリー が偏らないよ うバランスを 考えたメニュー 作成を行って いる。

42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>義歯の方はポリデント使用で、食後のうがい。歯のない方は、口腔ケアでの消毒を行っている一人で行えない方は介助にて実行。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>寝たきりの方は時間を定めオムツ交換を行い、便の時は清拭を行う、一人で行かれる方は声掛け誘導にてトイレへお連れしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個人の便チェック表を作成し、毎日確認して薬等で対応し、便秘がないようにしている。個人個人の食事管理。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>毎日の入浴が可能である。入浴剤使用にてリラックスして入浴できるよう対応している。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>眠れない時は、ホットレモン、ホットミルクを飲んでいただき、心を落ち着かせてもらう。部屋の温度調整 日中に布団干し、シーツ交換など安眠への提供を行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人ひとりのお薬手帳を保管している。個人の一日に服用する時間ごとに仕分けして服用していただく。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>本人の出来ることを見出し、縫いもの、塗り絵、生け花、編み物、折り紙等々、個々に合った趣味を提供している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>家族の行事など、連絡を取り合い、自由な時間に出掛けられるよう受け入れ体制を取っている。身寄りのない方は、本人の希望により買い物に出掛けたりする。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理はすべて家族で行っている。必要に応じて、本人が使えるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族等とすぐに連絡が取れるよう連絡網を作成している。自由に電話が出来るような体制も取っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>気分を害さない様、玄関・トイレ等、アロマ・消臭剤にて対応している。季節の花が解るよう生け花にして提供している。各部屋には芳香剤を設置している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下に椅子、テーブル等を設置し、個人の時間を過ごせるようにしている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家に居た時とほぼ同じような部屋作りを心掛け、家族写真や長年使用していた家具等を持ち込み、穏やかな日々を過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂場、トイレ、廊下と、手すりを設置。歩行困難な方がスムーズに移動できるよう手助けし、ベットには自力で起き上がりができるよう手すりを設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない